

製造ライン男子禁制

日経産業新聞 2016年3月24日

IHIスター、体の負担減らし女性活用

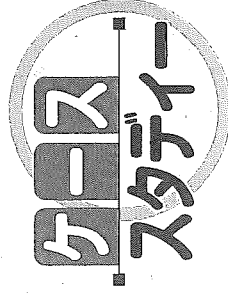
IHIの子会社のIHIスター（北海道千歳市）はトラクター関連機器を製造する。製造ラインの1つを女性作業員専用に変えた。重い物を動かしたり、姿勢を変えたりせずに済むように改良した。女性の作業のしやすさを追求した結果、製造時間は従来よりも3割超短くなった。製造現場での女性の活用と生産の効率化が両立できた。

新千歳空港から北西に車を30分ほど走らせると、IHIスターの本社工場に着く。2棟の建屋で構成する工場の周りには畑が広がる。3月上旬に訪れると、一面が雪に覆われていた。

工場の中には「シリウスライン」と書いた看板を掲げる1本の製造ラインがある。看板の下では20代と30代の2人の女性が立つ。プロードキャスターと呼ぶ製品を組み立てている。

常に正面に部品 姿勢変えず作業

プロードキャスターはトラクターの後ろに取り付ける作業機の一つで、器のような器具を使って肥料を散布するのに使う。シリウスライン



では1台を組み立てるのにかかる時間は30分ほど。1日で約15台を仕上げると。

IHIスターはトラクターがけん引する各種の作業機を製造している。従業員数は約290人。

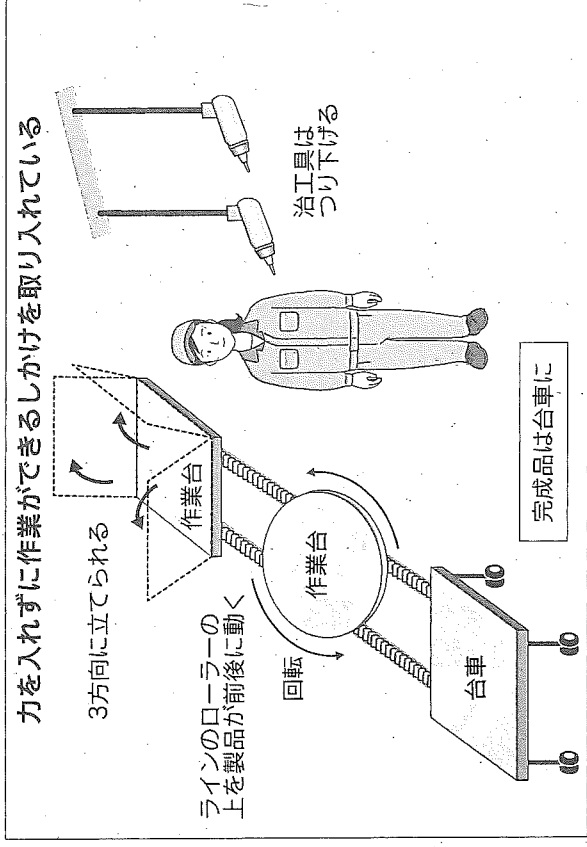
5年前、製造時間を短くするためプロードキャスターの生産ラインを改善する検討を始めた。ラインでは男性の作業員に交じって数人の女性の丁寧な仕事ぶりが際立っていた。「女性ならではの作業を生かすためにも専用ラインが必要なのではないか」。2012年7月、女性専用のラインを設けることを決め、工夫を続けてきた。

ラインでは作業台に対象物を置いて各種の部品を組み付ける。ラインの前半と後半に1つずつ作業台を置いていて、前半の作業台は対象物を据え付けたまま3つの方向に倒れ、後半はクルクルと回転する。作業員がしゃがんだり、移動したりしなくても部品を組み付ける場所が常に正面に来る。

これらの作業台を支えるラインにはローラーが付いており、前後にも動かせる。作業台は軽い力で動かせる。

部品の組み付けに使う治工器具をハンマーから油圧式に変えたうえで頭上からぶら下げた。通常なら脇に置いてある治工器具をつかんで使うが、引っ張り下ろして作業をする。これらの工夫で「持ち上げる」行為をなくした。

「不満があるとすれば作業服が汚れるぐらい」。女性の作業員の1人は笑う。ラインの改善を始めた途中



から入社したが、「思っていたよりも腰や腕への負担が少くない」と、予想以上に働きやすいことを感じている。

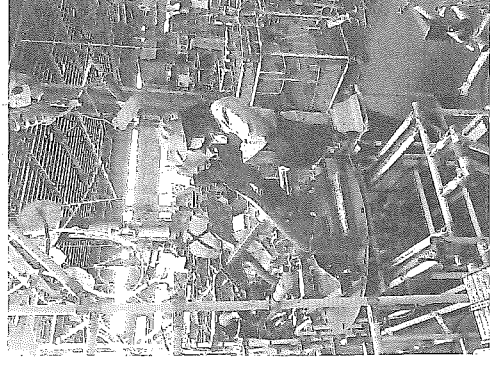
1台のプロードキャスターを組み立てるのにかつては46分かかっていましたが、女性の作業のしやすさを目標に改善してきたことで、製造に要する時間は85%短くなった。「女性に任せた方が作業が正確だし、早い。不良品もほとんど発生しない」。生産管理部の勝原保次長はこう指摘する。

経験が豊富な男性 適所へ配置可能に

女性専用ラインが成功した背景には製品の特性もあった。プロードキャスターの販売は3～5月に増え、夏が閑散期となる。急な需要の増減があるにそれに応えるために力仕事に頼らざるを得ない場面が出てくるが、計画的な働き方が可能だ。

IHIスターは多品種少量生産が基本で、トラクターの作業機を中心に製品は40機種、型式の違いを含め

円形の作業台は回転するので作業員が姿勢変えずに組み立てができる（北海道千歳市）



と200にのぼる。女性に任せるとインを取り入れたことで、経験が豊富な男性の作業員をより複雑な製品の組み立てラインに配置できるようになった。

社名のスター（星）にちなみ、シリウスラインという名前には「改善の一等星を目指す」という願いを込めている。現在、女性専用ラインは1つだけだが、勝原氏は「ここで得た経験は他のラインにも生かせる」と話す。男性が従事する通常の組み立てラインでも、効率を上げるヒントになりそうだ。

の印象を持っていてるだろう。

製造現場の人手不足は深刻だ。高齢化も進む。女性の活躍は政府が呼びかけるが、営業や間接部門に偏ってしまっている。地方では女性が働く機会が少ない。女性でも問題なく作業ができる仕組みをつくらう。それを周知させていく必要がある。

（長江優子）